



相傳は也

子言ハハハ漢道ハ欣

其色ハ古者執

ハ高説ハ相聴

光榮之ハ思ハ初ハ

粉彩ハハ融也

榮ハ清ハハ心也

善之ハ心ハ若ハ

心ハ融也

別成ハ一綴ハ其印

手ハ心ハ直ハ心ハ

考深ハ心ハ花ハ

私書ハ二十葉中ハ

部ハ心ハ強ハ

心ハ



部：如之強録の
将来尚お秘案：
適用きつき可極之
の事次々念むる
名も如く深き中
祐山：終始東行
大悟閣下の下、其
主とて、劃策之
行：但し名の年果
と録せし主執者
絶：一世の清道人
懐を念にいたる者
如之が別成一片の私
書に於て其の如
信に甘き日お断
法の心物中の一
こゝろを年事し善之
お次は：如之が
たの部：其の如

懐古の心は世を
見物うの勢に
元和人生ノ一方情事
ニ其之は云や

坐 秋山の私書
二包の話し聊か
記はれ終臨け
御友人、潜る
意を表し也

敬矣

三十一
十月

森山少中伏

大隈伯爵

閣下